



CIVIC

府中市政レポート Vol.029

NEWS

府中市議会議員 須山たかし

【発行】市民フォーラム
〒183-8703 東京都府中市宮西町2-2-4

平成29年度一般会計決算が可決されました。

8/31～9/28の29日間、府中市議会第3回定例会(9月議会)が開催され、平成29年度の一般会計決算が審議の上、可決されました。

平成29年度一般会計決算



市税	¥52,449,368,206
国庫支出金	¥17,791,424,715
都支出金	¥11,043,184,103
地方消費税交付金	¥5,565,169,000
使用料および手数料	¥4,311,918,987
繰越金	¥2,850,194,266
雑収入	¥1,910,506,319
繰入金	¥11,657,046,683
市債	¥7,371,700,000
その他	¥3,497,232,641



民生費	¥50,306,724,837
教育費	¥15,846,512,006
土木費	¥5,861,786,424
総務費	¥16,291,120,428
衛生費	¥9,922,010,771
公債費	¥4,185,690,813
諸支出金	¥11,839,484,294
消防費	¥2,888,802,181
その他	¥1,123,340,690

29年度は当初予算で総額1046億円という過去最大規模のものでした。駅前再開発事業で「Le SIGNE」がグランドオープンし、また一度に22,000食を作ることが出来る新給食センターの竣工など、ハードの面で大規模事業が行われたことに拠るものです。当初予算では9億円の減収が見込まれていたものの、決算では法人市民税の大幅増や競走事業からの繰入金の増もあり、結果としては健全財政を維持してきました。

須山は「市民フォーラム」を代表して、賛成討論を行い、
 ・子育て世代への切れ目のない支援や子どもの貧困対策など部を横断して推進する「子ども政策担当」設置。
 ・16～18歳を対象に、地元・府中を知るためにフィールドワークなどを行い、市民協働へつなぐ「フューグッドライフキャラバン」などの施策を評価し、平成29年度一般会計決算案に賛成致しました。詳細は府中市議会議事録をご覧ください。

主な陳情

同性パートナーシップの公的承認に関する陳情 **採択**



府中市でも同性パートナーシップの承認制度を創設し、その存在を公に認める方策をとることにより、性的マイノリティにとっても住みやすく、魅力ある多様性が認められるまちにするため、導入に向けた協議を開始を求める陳情が出され、全会一致で「採択」となりました。
 今まででも議会内外で取り組んできた件であり、今後も多様性を認め合う府中市を創るた

めに引き続き、これからの市の動向を注視しながら活動をします。

9/30に行われた立憲フェスにおいて、「自治体にパートナーシップ制度を求める会」のみなさんとブースを出展。運動参議院議員にもお手伝い頂きました。



「スマートエネルギー都市の構築」の実現を期し、再エネ推進条例(仮称)制定のための検討協議会の設置を要望する陳情 **不採択**

条例の制定は進めていく考えであります。陳情文にある「検討体勢の構築」において、現状では実現が難しい箇所がありました。府中市議会は審議した陳情/請願に関してはその願意を汲み取り、責任を持って実現していくために「趣旨採択*」を行っておりません。だからこそ一語一語にこだわり議論を尽くしています。



市民フォーラムは趣旨に大いに賛同しながら、実現可能な陳情にするため「継続審査」を主張しましたが、否決されたため、残念ながら、今陳情は不採択となりました。

「趣旨採択*」とは？

請願・請願において、その願意は理解できるが、実現が困難なものや当面の間実現不可能なもの等を、趣旨には賛成するという方法。議会としてどっちつかずの「グレー」の意思表示につながる恐れもある。

日々の活動から

10月13～14日に開催された「府中市福祉まつり」に府中市視覚障害者福祉協会の皆さんが出展していたブースに「FOTON GLASS」なるものがありました。「知覚を拡張するIoT(※)スマートグラス」というもので、メガネについているカメラで文字を読み取り、インターネット上の画像認識エンジンで文字を読み取り、音声に変換して、それを耳元で再生してくれます。手書きの文字も精度高く読み取れて、翻訳もしてくれる優れたものでした。目の不自由な方でも「読む」ことが出来るようになる、魅力的なデバイスでした。ICTなどの技術の進歩が生活に直結し、様々な



試着させていただきました

障害を超えていくことにより、さらに豊かな「暮らし」が期待されます。

市内で様々なイベントが開催され、出席をさせて頂きますが、こうした新しい発見や気づき、そしてお会いする皆さんから貴重なご意見を頂き、市政に反映させて頂いております。

(※IoT Internet of Things モノをインターネットにつなぐことやそうしたデバイス。エアコンをインターネットにつないでスマートフォンから遠隔操作をするなど、一般にも普及してきている。)

インターン生から

◎須山議員の下でインターンシップをさせて頂き、これまで接する機会がなかった、政治家の方や地域の支援者の方々とお話することができました。その中で、私が感じたのは、皆さんが私を、「大人」とは違う、「若者」として、特別に扱って下さり、色々なことを教えて下さったり、ご指導下さったことです。

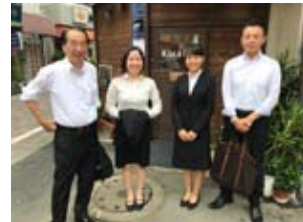
若者であるからこそできる経験があると知ることができた、また、それを実際に経験できた貴重な機会でした。

この貴重な経験を自分の糧にして、自分の生き方を見つめ直し、今を大切に生きていきたいと思っております。

◎2ヶ月間須山さんの下でインターンとして過ごさせて頂きました。

他にも多くのものを抱えていた夏休みだったため、インターン活動があまりできなかったことを個人的に悔しく思っているのですが、少しでも議員の方がどんな風にもちを見つめ、関わっているのかをインターン生として見る事ができたことは、とても貴重な体験だったと思います。

府中刑務所や国会の見学、政策づくり&発表会、地域回り、立憲民主党の会等、一般の学生生活では経験できないことを多くさせて頂きました。



府中刑務所の視察に菅さんと

一般質問「新学習指導要領を見据えたICT教育に関して」

2020年に改訂される学習指導要領には「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」が掲げられており、詰め込み型で知識偏重の教育から、思考をして、対話の中で課題を解決する力を身につけていくことを目指しています。

情報化、ICT化が進む中で、府中市の「学びのあり方」、「指導のあり方」をどの様に考えるか質問いたしました。

ICT教育に関して、現状と課題は？

A本年度、モデル校3校において、全普通教室に大型提示装置と実物投影機、教師用と各校40台の児童・生徒用タブレット端末を整備し、それらの活用を促進する目的で、定期的に学校を巡回して支援を行うICT巡回支援員を配置。今後の課題として、全小中学校への機器整備や、システム等の活用に向けた支援体制、研修等の充実を図ることが挙げられる。

モデル校での成果はどのように共有していくのか？

AICT支援員が作成にかかわった教材については、全校で共有するとともに、モデル校で実際に行った授業事例については、教育委員会が教職員を対象として月1回程度配信しているICT通信や、各校の情報教育推進リーダーを対象とした研修を通じて、全校への周知、共有を図っていく。

お知らせ

議会改革検討委員会で議論をしてきた議会基本条例がまとまりました。11月発行の「市議会だより」にお知らせが載り、その後、市議会HPと議会図書室にて条例案が公開されます。

我々委員が長時間に渡り議論してきたものですので、ぜひ皆さんからのご意見をお聞かせ下さい！

平成30年第4回府中市議会定例会(12月議会)は12/3(月)開会予定です。

2020年にプログラミング教育が必修化される目的は？

A技能習得ではなく、論理的思考力を育むとともに、情報社会がコンピューターを初めとする情報技術によって支えられていることなどに気づき、身近な問題の解決に主体的に取り組む態度や、コンピューター等を上手に活用してよりよい社会を築いていこうとする態度などを育むこと、教科等で学ぶものをより確実に身につけさせるものと捉えている。

国が示している事がよくわからないため、上記の様な分かりづらい答弁になったと思われるが、何故プログラミングを用いるのかという意識の共有は必須であるがどの様に進めるか？

A教育委員会としても、プログラミング教育の名称のみが先行しており、その内容を正確に周知することは必要であると認識している。まず教員については、モデル校の事例等を含め、研修会等の機会に周知するとともに、実際に事業を実施することで、児童の理解も深めていく。

たかしの眼「ICTはもはやツールではなくてインフラだ」



これは、プログラミング教育で先進的な前原小学校の松田校長に伺った言葉です。ICTがあって当たり前時代に、技術に遣われるのではなくて、活用することで新たな価値を創造していくことが求められています。

例えばインシュタインは、自宅の電話番号を覚えなかったと言われていました。これは簡単に調べればわかることを暗記するより、自分で思考して得た知識はより定着するという事の逸話として知られています。検索すれば大概のことは瞬時にわかる時代は、学びや知識は新たな段階にいくのではないのでしょうか。

そんな時代だからこそ技術を使う意義や哲学を理解し、府中市として新しい時代の「学び」を創り上げる必要があります。

皆さんはどう考えますか？ご意見をお聞かせ下さい！

須山たかしプロフィール

1980(昭和55)年11月6日生まれ(38歳)。府中市晴見町育ち・在住。明星幼稚園、桐朋小・中・高校、早稲田大学社会科学部卒業。早稲田大学大隈塾においてジャーナリスト高野孟に師事(1期生)。大学卒業後、民間特許事務所に3年半勤務。その後、政党本部スタッフ、参議院議員公設秘書など国政に従事。蓮舫(れんぼう)参議院議員の秘書を経て、2011年府中市議会議員に初当選。2015年2期目再選。

現在、文教委員会 委員長 市庁舎建設特別委員会 委員 府中市民生委員推薦会委員 都市計画審議会委員 議会改革検討委員会委員 空家等対策審議会委員 市民フォーラム所属

地域での主な活動

- ・公益社団法人むさし府中青年会議所会員・武蔵野府中ボーイズ名誉顧問
- ・けやき音楽祭2013JAZZinFUCHU実行委員長

mail suyama1980@gmail.com

HP http://suyamatakashi.jp/

TEL&FAX 042-307-8309



ご意見・ご要望お待ちしております！「府中市議会議員須山たかし」で検索

